



星美学園  
小学校  
第521号

主の  
御降誕の月

聖書

「いと高き天においては神に栄光  
地においては、み心にかなう人々に平安」

ルカ二章

徳を積む

教頭 竹内 幸夫

キリストの誕生をお祝いするクリスマスが近づいてきました。キリスト誕生には、約二千年前のユダヤ（イスラエル）の歴史がありました。当時のヨーロッパは、ローマ帝国の圧政によって苦しみ、人民は救い主メシヤ（キリスト）を待ち望んでいました。BC六世紀には、キリストの誕生を多くの預言者が主張していました。その一人であったミカは「その神は、イスラエルを治める者であると共に、その力は地の果てまでに及ぶ。」と言われ「その神は、ベツレヘムでお生まれになる。」と主張しました。予言通りキリストは誕生し、その名をイエスと名づけられました。

本日、多目的ホールをベツレヘムに見立て、全校でお祝いするクリスマス会を行いました。その中で六年生は、イエス様誕生の流れを聖劇で演じたり、侍者となり朗読をしたりしました。また、聖歌隊は、心のこもった歌声を披露してイエス様の誕生をお祝いしました。会場にお招きした方々は、子ども達の歌と劇に感動されるとともに、クリスマスの本当の意味を受け止めていらっしやいました。

学校では、このクリスマスを迎えるに当たり十三日から十七日までの五日間徳の花を行いました。今回の徳の花のテーマは、「お手伝いや親切な行いをして、徳の花をイエス様にお捧げしましょう。クリスマスリースの丸い枠の中にその日どんなことができたかを書いておきましょう。」五日間の徳の花を終えたら、イエス様のご誕生をお祝いして、お手紙を書きましょう。」でした。子ども達の徳の花カードを見ると毎日お手伝いを一生

懸命取り組んだ様子がよくわかりました。また、各ご家庭からはお子様の徳の花に見合ったお米・お米券・献金のご協力を頂きありがとうございました。

徳の花の取り組みは、創立以来実施しているもので、その狙いは、自らを高め、他者のためにはたらしかけ、精神的・道徳的に品性・人格を形成していくために欠くことができないものです。ドン・ボスコの教育実践の一つともなっています。本校での徳の花の行は、短い期間ではありますが、五月の聖母祭、十二月の無原罪の祝日、そしてクリスマスの年間三回行っています。

昔の日本の多くの家庭では徳を積むことを家庭の躰として教えました。時代の変化とともに薄れていきました。本校では、子ども達が大人になって社会で役立つ人となり徳を積むことで、立派な人格者となるためにも徳の花の実行を行ってきました。今、社会で活躍し多くの人々から認められている方々は、その功績を称賛されているとともに、人間的に立派な人格者となっているからこそ尊敬されているのではないのでしょうか。本校で学ぶ子ども達が星美で学んだことに誇りを持ち、社会で役立つ人格者となるための基礎をしっかりとつくるために、徳を積むことは最も大切なことだと思います。また、学校では、徳の花の期間だけでなく、毎日の生活の中で、徳を積むことができる子どもを育てていきたいと取り組んでおります。是非、ご家庭でもお子様の将来のために、徳の花を勧め、頂き、実行できる子を育てていただきたいと思います。文末になりましたが、全てのご家庭にイエス様のお恵みが届きますように。そして新年が、明るく幸せな年となりますようお祈りいたします。

### 「チマツチ神父の生涯」

「日本の地で聖ドン・ボスコの心を生きた人」



当時、日本の政治情勢が難しくなり、権限を握っていた軍部が、アメリカに対する戦争を準備していた。宣教師を含めて、外国人は、あまりよい目で見られていなかった。憲法は宗教の自由を認めてはいなかったが、実際は神道のみが受け入れられ、国家宗教となっていた。その状況を認識したローマ教皇は、外国人司教や高位聖職者に日本から離れるよう呼びかけ、日本人司祭と交代させた。チマツチ神父はローマ教皇の呼びかけに応えた最初の高位聖職者の一人であった。チマツチ神父は、田舎に身を潜め生活することになった。チマツチ神父の生活は、大きく変わった。チマツチ神父は、人々のチマツチ神父に対する思いは以前と変わらず、モンシニョーレと呼び尊敬していた。私たちにとってモンシニョーレと呼ぶことは、権威的な呼び方ではなく、私たちが理解し、弱さをゆるし、いつも励まし愛してくれている父に対する通常の呼び方だった。

一九四一年十二月八日に戦争が勃発した。チマツチ神父は、経済的困難のみならず、特に他人の無理解や誤解に、この数年間非常に苦しんだが、その時も政府当局に対し絶えず尊敬を示し、批判や、不適切な批判は決してしなかった。ドン・ボスコの『何事も心配するな』を見事に実践し、そうするように他人にも勧めていた。

# 東初協音楽祭

仲間と一緒に歌える時間を大切に

聖歌隊部長

六年

聖歌隊は十一月二十七日に第三十回東初協音楽祭に参加しました。この音楽祭には毎年参加していますが(星美は三十回連続出場)、今年は三十回目という記念の年であり、六年生は最後のステージなので今までは少し違う緊張感がありました。聖歌隊は、「合唱——〇」という言葉を合言葉にチームワークをととても大切にしています。今まで、コンクールや合宿などでチームワークを深めてきましたが、今回の東初協音楽祭で、「より全員の心がそろい、たくさんの人に歌を届けられたらな」という思いで歌いました。そして、私達のためにお祈りや応援をして下さる方々や、今病気で苦しんでいる大切な先生のためにも一生懸命、祈りの歌を心を込めて歌いました。演奏が終わった後、たくさんの方々が拍手をして下さりとても嬉しかったです。また他の学校の演奏や合唱を聴いて、「音楽はみんなが元気になれる本当に素晴らしいものだ」と、この音楽祭に参加して改めて思いました。部長として学年の違うたくさんの方々の部員をまとめることは難しく、くじけそうになることもありますが、この経験を忘れずに卒業までのあと少し、仲間と一緒に歌える時間を大切にしていきたいです。

## 最後の校外演奏

金管バンド

六年

十一月二十七日、私達六年生にとって最後の校外演奏となる東初協音楽祭が行われました。

曲名は、学習発表会でも演奏した「きらきら星変奏曲」と「おおシャンゼリゼ」です。きらきら星変奏曲は、途中で色々な曲が登場して、音の強弱を付けるのが大変でした。おおシャンゼリゼは、トロンボーンが講師の先生に何度も御指導され、難しい部分を何度も練習しました。

そしてむかえた東初協本番。舞台から見た景色は去年と同じ景色でしたが、頼りにしていた六年生は私達自身。今までの練習の成果を発揮し、聴いて下さる方々の記憶に少しでも残ってもらえるよう、精一杯演奏しました。

東初協が終わると、すぐに新しく入った三年生の本格的な練習が始まりました。最高学年としての自覚を持ち、卒業まであと約三ヶ月、しっかり育てていきたいです。そして、クリスマス会や二月の校内演奏会も、悔いの無いように演奏したいと思います。

## 1月行事予定

- 1日(日) 元旦
- 7日(土) 購買部販売(8:30~10:00)
- 9日(月) 成人の日
- 10日(火) 始業式・み言葉の祭儀・発育測定
- 13日(金) 漢字検定
- 16日(月)~17日(火)  
1年生~5年生 到達度テスト
- 18日(水) 学級委員紹介式
- 19日(木) マラソン練習開始
- 21日(土) 英語検定
- 24日(火) HS学習会③
- 25日(水)~28日(土)  
5年生 雪の学校
- 26日(木) 星の会③ 歩む会⑤
- 28日(土) 新1年生保護者会①

### 【ベルマーク整理】

- 17日(火) → 2B
- 18日(水) → 2C
- 19日(木) → 2A

## 始業式・み言葉の祭儀

学年最後の学期が始まります。

今年度の仕上げの学期です。学習・生活両面にきちんと目標を掲げてその達成を目指して取り組む学期にしましょう。

なお、始業式当日より通常授業となります。



※1月行事予定は1月号にて再度掲載致します。

☆☆

## 冬休みの過ごし方



いよいよ明日から冬休みが始まります。

児童会より「冬休みの過ごし方」、指導部より「生活指導だより」が配布されておりますので、ぜひお子様と一緒にご確認ください。健康・安全に気をつけて冬休みをお過ごしください。よいクリスマス・新年をお迎えください。

☆☆

## クリスマス・ミサのご案内

毎年、学園では、以下のようにクリスマスイブでのミサを行なっています。今年も下記の日程で行います。なお、お近くの教会でもごミサが行われますので、ご参加をおすすめいたします。ごミサにあずかりながらイエス様のご誕生を共に祈るひと時と致しましょう。



日時 12月24日(土) PM7時~  
場所 星美学園 聖堂

